

令和 6 年 4 月 22 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01290

研究課題名（和文）英語学習における「やる気の伝染」メカニズムの解明

研究課題名（英文）Elucidating the Mechanism of "Motivation Contagion" in English Learning

研究代表者

廣森 友人（Hiromori, Tomohito）

明治大学・国際日本学部・専任教授

研究者番号：30448378

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 6,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、英語学習のやる気（動機づけ）が伝染するメカニズムを解明することである。ペア及びグループ活動に焦点を置き、学習者の動機づけが変化・発達するプロセスを複数の研究手法を組み合わせて詳細に記述・分析、そして考察した。学習者が互いにやる気を高め合う中で、ペア及びグループワークに主体的に取り組む環境の創出には様々な要因を念頭に置く必要がある。本研究での一連の研究成果から、リーダーシップ、協同学習、グループ分け、自己・集団効力感といった要因は、学習活動のデザインにおいて特に留意すべきであることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年の英語授業では、コミュニケーション活動を重視した教育が進んでいる。具体的には、生徒が主体となって学ぶ協同学習やタスクを用いた指導が取り入れられ、ペアやグループでの活動が増加している。この傾向は言語習得には有効だが、コミュニケーション中心の授業に不安を感じる生徒も少なくない。そのため、うまくいかないペアやグループの問題点や成功しているペアやグループの特徴を明らかにすることができれば、より効果的な指導法の開発に寄与し、動機づけ研究の発展にもつながる。本研究の成果は、学校教育における学びの充実と学習環境の創出に対して有益な示唆を提供すると考えられる。

研究成果の概要（英文）：The aim of this study is to elucidate the mechanisms through which motivation for learning English is transmitted. By focusing on pair/group activities, this research integrated multiple methodologies to describe, analyze, and consider how learners' motivation evolves and develops. In creating an environment where learners actively engage in pair/group work while mutually enhancing each other's motivation, various factors need to be considered. Findings from this study suggest that factors such as leadership, collaborative learning, group division, and individual/collective efficacy are particularly important in the design of learning activities.

研究分野：応用言語学，第二言語習得研究，英語教育学

キーワード：英語学習 動機づけ エンゲージメント ペアワーク グループワーク グループダイナミックス

1. 研究開始当初の背景

近年の英語授業では一貫してコミュニケーション活動の充実が目指され、タスクを用いた指導や、生徒が主体となり互いに学び合う協同学習などが取り入れられている。結果として、授業にはこれまで以上にペアやグループでの活動が増えている。この傾向は言語習得の観点から見れば望ましいものだが、一方でコミュニケーション中心の授業に対して否定的な感情や不安を持つ生徒がいることも事実である。だとすれば、「うまくいかないペア/グループにはどのような問題が生じているのか」、「高い成果を上げるペア/グループにはどのような特徴があるのか」、「ペア/グループ活動をいかに実り多いものにするのか」といったことを理論と実践の両面から検討することは、より効果的な指導実践に寄与すると同時に、動機づけ研究のさらなる発展・深化にもつながるものと考えられる。本研究課題では、学習者が相互にやる気を高め合いつつ、グループワークに主体的に取り組むために必要な学習活動のデザインについて、リーダーシップ、協同学習、グループ分け、自己・集団効力感といったキーワードを通じて一連の調査・実験を行った。以下では、それぞれの研究成果について、個別にその概要を報告する。

2. 研究の目的

2.1 リーダーシップ

近年、L2 グループワークにおけるリーダーシップがグループ内のインタラクションや言語学習そのものにどのように影響するかを検討した研究が徐々に増えてきている。本研究の目的は、2つの異なるリーダーシップのスタイル(自然発生する創発リーダーと事前に教師からリーダーの役割を与えられた指名リーダー)に焦点を当て、英語で行われるグループワークにおいて、それぞれのリーダーの存在や振る舞いが、グループのタスク活性化、動機づけ、課題のパフォーマンスにどのように貢献するかを、グループ間で比較・検討することであった。

2.2 協同学習

Johnson and Johnson (2018) によれば、協同学習を効果的に進めるためには5つの基本的構成要素を取り入れたグループワークの実施が重要である。協同学習理論を取り入れたグループワークは、言語面・認知面・情意面において、学習者に良い影響を及ぼすことが報告されているが(Dörnyei & Murphey, 2003; McCafferty et al., 2006; Yoshimura et al., 2021)、学習者のエンゲージメントに与える影響についてはこれまであまり検証されていない。そこで本研究では、協同学習理論に基づいたグループワークが学習者のエンゲージメントに与える影響を検証した。

2.3 グループ分け

グループワークを行う際、教員はまずグループの編成を考える必要があるが、その方法について明確な指針を持っていることは少ない。協同学習や動機づけに関する文献においても、グループ分けの方法について詳述したものはあるが、その違いが学習効果や動機づけの面でどのような影響を与えるかに関して実証的に調査した研究はほとんどない。そこで本研究は、グループ分けの一つの側面として、メンバーを期間中固定するか、毎回変更するかによって、動機づけや学習成果にどのような影響があるか検証を試みた。

2.4 自己・集団効力感

学習環境は学習者の心理にさまざまな影響を及ぼすものである。例えば、グループワークにおいては、環境が動機づけと密接に関連しており、自身が所属するグループワーク環境を肯定的に捉える学習者の内発的動機づけは高く、無動機は低いことが報告されている(Tanaka, 2022)。本研究では、動機づけに加えて、個人と集団に関する効力感にも焦点を当て、グループワーク環境の違いが、動機づけ、自己効力感、集団効力感に及ぼす影響を検証した。また、これらの要因と英語熟達度との関係も検証した。

3. 研究の方法

3.1 リーダーシップ

研究対象は、大学生の日本人英語学習者45名であり、7つの創発リーダーグループ($n=21$)と8つの指名リーダーグループ($n=24$)に分けられた。理論的枠組みとして複雑系理論(CDST)を用い、複数の観点からグループワークに関するデータの収集と分析を行った。具体的には、各グループにライティング課題を与え、グループワーク中のメンバーの発言や振る舞いを全てGroup Work Dynamic measuring instrument (Poupore, 2016, 2018)に基づいてカウントし、数値化して分析を行った。また、タスク中の動機づけの変化を5分ごとに振り返り、自己評価する質問紙の回答を統計的に比較した。最後に、グループで行ったライティング課題を採点し、スコアを算出し、統計的に比較検証を行った。

3.2 協同学習

日本人大学生 49 名を対象に、半期 14 週にわたって教育介入を行った。対象となった学習者はグループに分かれ（計 15 グループ）、7 週目と 14 週目に 20 分間のグループワークを行った。その際、8 週目以降は協同学習によるグループワークを取り入れた教育介入を行い、介入前後でのエンゲージメントの変化を 3 側面（感情的・認知的・行動的エンゲージメント）から調査した。Fredricks et al. (2004) を参考に、感情面は協同学習やエンゲージメントに関する質問項目を含んだ質問紙調査を実施し、認知面はグループワーク中のやり取りを文字起こししたデータを 4 種類（grammar, lexis, mechanics, content）に関する Language-Related Episodes (LREs) の観点から分類し、行動面はグループワーク中の学習者の発言数とターン数を数値化した。

3.3 グループ分け

大学 1 回生の英語必修科目において、10 週間にわたって計 10 回のグループ・ワークを行った。毎週一本の英文記事について、「授業前に各自が予習」、「授業内のグループワークで内容理解の確認」、「最後に内容確認テストの受験」というタスクを、一方のクラスでは、最初に決めたメンバーを期間中固定して取り組み、もう一方のクラスでは、毎回ランダムにメンバーを決め直して取り組んだ。10 回分の内容理解テストのスコア及び予習状況に関する自己評価等を尋ねる質問紙調査のデータをもとに分析を行った。

3.4 自己・集団効力感

プロジェクト発信型英語の授業を受講し、同じメンバーと一学期間グループワークに取り組んだ大学生を対象に、質問紙調査を実施した。質問紙は、グループワーク環境（グループの結束性・グループのエンゲージメント）、動機づけ（内発的動機づけ・無動機）、効力感（自己効力感・集団効力感）に関する項目で構成されており、これらの項目と構成概念をラッシュ分析によって検証した後、熟達度英語テストの得点とともにパス解析を用いて主分析を行った。

4. 研究成果

4.1 リーダーシップ

分析の結果から、創発リーダーのグループと指名リーダーのグループでは、グループワークの活性化と動機づけのレベルに質的な違いが明らかになった。グループワークの活性化に貢献する行動は、指名リーダーのグループでより頻繁に観察された。さらに、動機づけは、創発リーダーのグループでは徐々に上昇したが、指名リーダーのグループでは早期にピークに達し、高いまま維持された。この結果から、明確な役割と高い動機づけを持つリーダーを事前に指名して配置することが、グループワークにおける好ましい初期条件を確保することにつながり、短時間でのグループワークの活性化とより高い動機づけでの活動に寄与する可能性が示された。

4.2 協同学習

研究成果として、感情面で協同学習による介入前後で感情的エンゲージメントに有意差が見られた。また、Individual accountability と感情的エンゲージメントの変化の間に有意な相関があったことから、個人の責任感をより強く自覚する学習者ほど、感情的エンゲージメントが高まる傾向にあったことがわかった。行動面については、発言数・ターン数がグループワークの最初と最後の 5 分間で違いが見られたが、全体的な発言数とターン数にほとんど差はなかった。一方で、LREs 数が介入後、約 2 倍に増加していたことから、認知面に関しては、介入を通じてタスクに関する話し合いがグループ内で効率的に実施されていたことが示唆された。

4.3 グループ分け

毎回メンバーを変える群の方が、相対的に予習での学習量が多く、理解度も常に高いという結果から、毎回新鮮なメンバーで取り組む緊張感が学習を促す効果を生むことが確認された。また、固定メンバーの群では、メンバー間の関係性が向上していく傾向がある一方で、学習量と理解度においては学期の中頃までは向上するものの、後半は下がる傾向が見られた。このことから、メンバーの固定はグループの結束を強める利点がある一方で、「なれ合い」によって、特定メンバーへの依存度が高まることから、学習者によっては学習量が減少する可能性が示された。グループ分けの方法については、学習活動の期間や目的に合わせて細やかに検討していく必要性が示唆された。

4.4 集団効力感

分析の結果、学習者が所属するグループワーク環境によって、動機づけ、自己効力感、集団効力感が異なることが明らかになった。具体的には、結束が強く、メンバーが積極的に活動に取り組み、他のメンバーの学習や活動にも関心を示していると認識する学習者ほど、内発的動機づけ、自己効力感、集団効力感が高く、無動機が低い傾向が見られた。また、英語熟達度については、動機づけ以外には直接的な関係は見られなかった。これらの結果から、グループワーク環境は、動機づけだけでなく個人と集団に関する効力感（自己効力感、集団効力感）にも影響を及ぼし、学習者の自信や有能感の向上に寄与する可能性が示唆された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 Hiromori, T.	4. 巻 34
2. 論文標題 Group work dynamics and the role of leadership in face to face and online second language classes	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 International Journal of Applied Linguistics	6. 最初と最後の頁 316 ~ 332
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ijal.12495	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiromori, T.	4. 巻 91
2. 論文標題 Motivating each other in a project-based EFL language course	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 明治大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 231 ~ 246
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiromori, T., Okunuki, A., Kashimura, Y., Terao, K., Kamemoto, S., Suzuki, H., Nakamura, H., & Izumisawa, M.	4. 巻 35
2. 論文標題 Motivation in English language learning: A systematic review of three major domestic journals over the past 20 years	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 ARELE (Annual Review of English Language Education in Japan)	6. 最初と最後の頁 33 ~ 48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 廣森友人	4. 巻 7
2. 論文標題 学習者間の協働的やり取り：社会的エンゲージメント	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 大修館英語通信 What's New!	6. 最初と最後の頁 16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Hiromori, T., & Hassan, M.	4. 巻 40
2. 論文標題 Book review: Technology-Assisted Language Assessment in Diverse Contexts: Lessons from the Transition to Online Testing During Covid-19	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Language Testing	6. 最初と最後の頁 1043 ~ 1046
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/02655322231186707	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshimura, M., Hiromori, T., & Kirimura, R.	4. 巻 54
2. 論文標題 Dynamic Changes and Individual Differences in Learners' Perceptions of Cooperative Learning During a Project Activity	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 RELC Journal	6. 最初と最後の頁 667 ~ 682
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/00336882211012785	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 廣森友人	4. 巻 9
2. 論文標題 英語に苦手意識のある学習者をどう動機づけるか？ 3つのポイントから	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 英語教育	6. 最初と最後の頁 22 ~ 23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 廣森友人	4. 巻 5
2. 論文標題 課題解決に向けた方略的取り組み：認知的エンゲージメント	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大修館英語通信 What's New!	6. 最初と最後の頁 16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 廣森友人	4. 巻 6
2. 論文標題 学習活動に対する情動的反応：感情的エンゲージメント	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大修館英語通信 What's New!	6. 最初と最後の頁 16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiromori, T.	4. 巻 3
2. 論文標題 Anatomizing students' task engagement in pair work in the language classroom	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal for the Psychology of Language Learning	6. 最初と最後の頁 88-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.52598/jplll/3/1/5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiromori, T.	4. 巻 21
2. 論文標題 Are two heads better than one? Comparing engagement between pairs and individuals in an L2 writing task	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Language Teaching Research Quarterly	6. 最初と最後の頁 66-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32038/ltrq.2021.21.05	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiromori, T.	4. 巻 4
2. 論文標題 Book Review of "The Big Five in SLA"	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Australian Journal of Applied Linguistics	6. 最初と最後の頁 79-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.29140/ajal.v4n2.517	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiromori, T.	4. 巻 59
2. 論文標題 Motivating individual learners, motivating learner groups: Creating motivation contagion in the language classroom	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 THE RITSUMEIKAN BUSINESS REVIEW	6. 最初と最後の頁 137-153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiromori, T., Yoshimura, M., Kirimura, R., & Mitsugi, M.	4. 巻 65
2. 論文標題 Roles of leadership and L2 learner motivation in group work activities	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 JACET Journal	6. 最初と最後の頁 47-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32234/jacetjournal.65.0_47	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yoshimura, M., Hiromori, T., & Kirimura, R.	4. 巻 52
2. 論文標題 Dynamic changes and individual differences in learners' perceptions of cooperative learning during a project activity	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 RELC Journal	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/00336882211012785	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiromori, T., Yoshimura, M., Mitsugi, M., & Kirimura, R.	4. 巻 25
2. 論文標題 Watch your partner's behaviors: Motivation contagion in L2 pair work	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics	6. 最初と最後の頁 25-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.25256/PAAL.25.1.2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 7件）

1. 発表者名 Hiromori, T.
2. 発表標題 Motivating each other in a project-based EFL language course
3. 学会等名 The 32nd International Symposium on English Language Teaching & Book Exhibit (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Hiromori, T.
2. 発表標題 The effects of grouping strategy on the engagement in and attitudes toward group work in an EFL language course
3. 学会等名 Canadian Association of Applied Linguistics Annual Conference 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Suzuki, H., & Hiromori, T.
2. 発表標題 Factors contributing to demotivation in Japanese EFL education: A study of high school and university students
3. 学会等名 The VietTESOL International Convention 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 廣森友人・桐村亮・吉村征洋・三ツ木真実・田中美津子
2. 発表標題 グループワーク×英語授業 - やる気が伝染する学習活動のデザイン -
3. 学会等名 2023年度多層言語環境研究シンポジウム
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 竹村雅史・廣森友人
2. 発表標題 多読は何故支持されるのか？ - 多読と自己決定理論との関係性
3. 学会等名 日本多読学会2023年度年会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 竹村雅史・廣森友人
2. 発表標題 多読に於ける内発的動機付け3要素から見えてきたもの - 2短大の比較から
3. 学会等名 大学英語教育学会（JACET）北海道支部2023年度第1回支部研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 廣森友人
2. 発表標題 エンゲージメントを高める英語授業 - 理論・実践・研究 -
3. 学会等名 全国英語教育学会（JASELE）第48回香川研究大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 廣森友人・奥貫明子・櫻村祐志・寺尾和真・亀本俊亮・鈴木洋海・中村姫奈子・泉澤誠
2. 発表標題 英語学習における動機づけ：国内主要3誌の過去20年にわたるシステムティックレビュー
3. 学会等名 全国英語教育学会（JASELE）第48回香川研究大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 廣森友人
2. 発表標題 英語教育論文執筆ガイド - 論文投稿・掲載のコツとヒント -
3. 学会等名 大学英語教育学会 (JACET) 関西支部 2023年度第1回支部講演会 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Masahiro Yoshimura・Tomohito Hiromori・Ryo Kirimura・Makoto Mitsugi
2. 発表標題 How does an “assigned leader” affect group dynamics in the Japanese EFL classroom?
3. 学会等名 The 19th AsiaTEFL International Conference 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ryo Kirimura・Tomohito Hiromori・Makoto Mitsugi・Masahiro Yoshimura
2. 発表標題 How group work is affected by fixing or changing members during a ten-week EFL reading activity
3. 学会等名 The 25th PAAL International Online Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三ツ木真実・廣森友人・吉村征洋・桐村亮
2. 発表標題 グループタスクにおけるリーダーシップと動機づけ
3. 学会等名 全国英語教育学会 (JASELE) 第46回長野研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tomohito Hiromori・Ryo Kirimura・Masahiro Yoshimura
2. 発表標題 Two heads are (always) better than one? Comparing L2 writing task engagement in pairs and individuals
3. 学会等名 The 16th Annual CamTESOL Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tomohito Hiromori
2. 発表標題 The effects of co-participant's motivational orientation on L2 student's task engagement in pair work activities
3. 学会等名 The Fourth International Psychology of Language Learning Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 廣森友人	4. 発行年 2023年
2. 出版社 大修館書店	5. 総ページ数 224
3. 書名 改訂版 英語学習のメカニズム: 第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法	

1. 著者名 Hiromori, T.	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Castledown Publishers	5. 総ページ数 218
3. 書名 Insights into teaching and learning writing: A practical guide for early-career teachers	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	吉村 征洋 (Yoshimura Masahiro) (90524471)	龍谷大学・農学部・准教授 (34316)	
研究分担者	桐村 亮 (Kirimura Ryo) (40584090)	立命館大学・経済学部・教授 (34315)	
研究分担者	三ツ木 真実 (Mitsugi Makoto) (80782458)	小樽商科大学・言語センター・准教授 (10104)	
研究分担者	田中 美津子 (Tanaka Mitsuko) (70732840)	大阪公立大学・大学院現代システム科学研究科・准教授 (24405)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関